

2023年2月17日開催
目白大学内部質保証
外部評価委員会

2022（令和4）年度
目白大学外部評価委員会 報告書

目白大学

目次

1. 本学の内部質保証と外部評価委員会について（趣旨）	3
2. 第1期外部評価委員会委員	4
3. 外部評価委員会の設置、役割について（関連規程）	4
4. 第3回外部評価委員会開催概要	5
4-1. 日程・場所（実施方法）・参加者	5
4-2. 事前資料	5
4-3. テーマについて	6
5. 議事概要	6
5-1. 開会	6
5-2. テーマ1「本学のキャリア・就職支援について」	7
5-2-1. 新宿キャンパスのキャリア教育と就職支援について	7
5-2-2. さいたま岩槻キャンパスの国家試験対策と就職支援について	9
5-3. テーマ2「ディプロマ・ポリシーの達成状況について～各種アンケート結果から～」 ..	10
5-3-1. 各種アンケートの結果について	10
5-4. テーマ3「SDGs副専攻、DX副専攻について」	12
5-4-1. 副専攻の開講状況と今後について	12

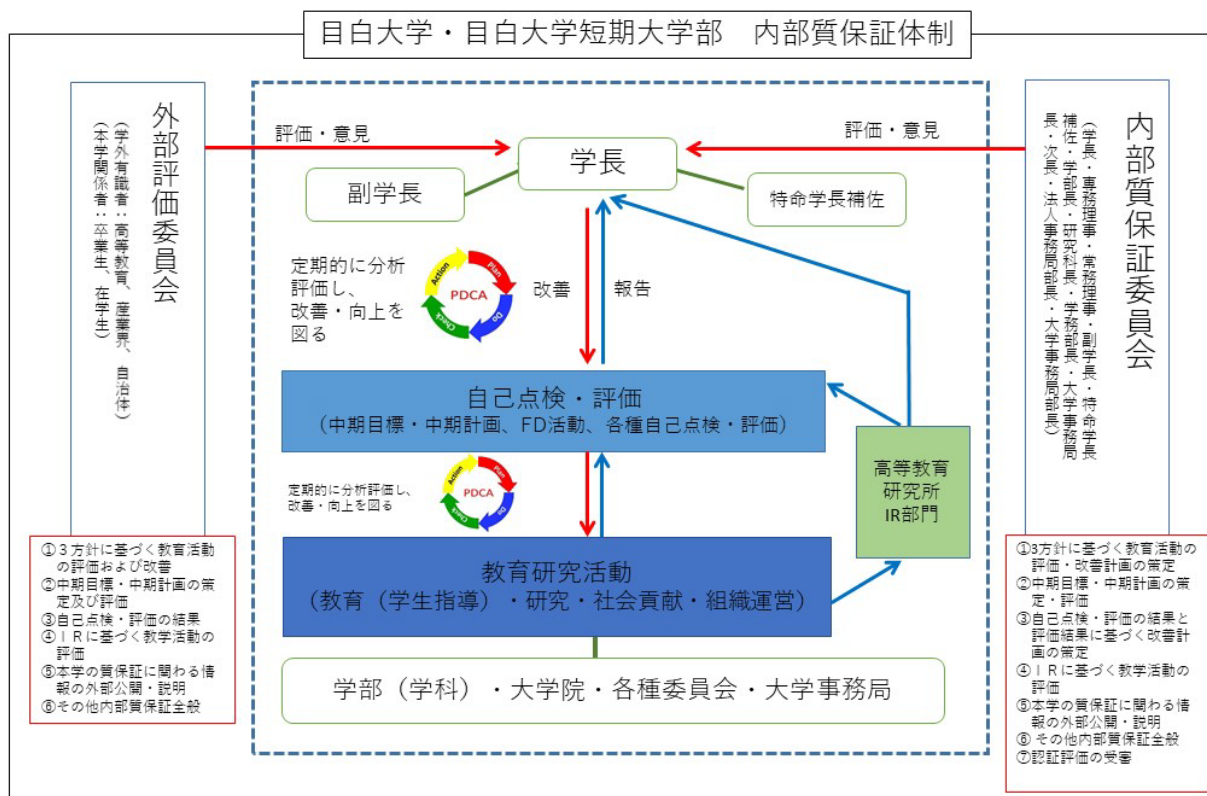
5-5. 閉会.....	12
6. 委員長総評.....	13
7. 2022年度（令和4年度）第3回外部評価委員会を実施して.....	14

1. 本学の内部質保証と外部評価委員会について（趣旨）

本学の「教育の質の保証」については、1994年の開学当時より、体制を整備し、高等教育機関として質の向上に努めて参りました。2006年4月には、目白大学・目白大学短期大学部における自己点検・評価及び第三者評価等に関する規則を制定し、自己点検・評価等実施部会、第三者評価結果等検証部会及び短期大学部自己点検・評価等部会を設置し、組織的な教育活動の自己点検の体制強化を行いました。

2020年4月には、当該規則の改正、並びに目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程を新たに制定し、上記3部会を統合して、学長のリーダーシップのもと、評価・改善等を策定する委員会として、『内部質保証委員会』を設置し、大学における自主的な質保証への取組（内部質保証）体制を整えました。

『外部評価委員会』は目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程第7条に基づき、外部有識者等の意見を聴取し、改善・改革に資する実質的な評価を行うことで、客観性と妥当性を担保し、本学の内部質保証体制の強化を目的として設立しました。



2. 第1期外部評価委員会委員

敬称略、肩書は2023年2月17日現在

職名	氏名	肩書	※1
委員長	山本 眞一	筑波大学・広島大学・桜美林大学 名誉教授	1号
委員	陶山 千里	株式会社ディスコ教育広報事業部教育広報営業部 キャリア支援営業課担当課長	2号
委員	田中 謙治	さいたま商工会議所青年部 (株式会社ベイプランニング)	2号
委員	高橋 仁	新宿区総合政策部行政管理課長	3号
委員	鄭 明淑	2006年人間学部心理カウンセリング学科卒業	5号
委員	植草 泰憲	2009年保健医療学部理学療法学科卒業	5号

※1 目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程第8条の号に合致した者

3. 外部評価委員会の設置、役割について（関連規程）

（目白大学・目白大学短期大学部における内部質保証に関する規程第7条、第8条）

（外部評価委員会）

第7条 外部評価委員会は、次に掲げる各号 について、 本学の学生や学外者の意見を聴取し、改善計画の策定に反映させるために開催する。

- (1) 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者の受け入れの方針の各方針に基づく教育活動の評価および改善に関する事項
- (2) 中期目標・中期計画の策定及び評価に関する事項
- (3) 自己点検・評価の結果に関する事項
- (4) IRに基づく教学活動の評価に関する事項
- (5) 本学の質保証に関わる情報の外部公開及び説明に関する事項
- (6) その他内部質保証全般に関する事項

（外部評価委員会の構成等）

第8条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 高等教育に関する見識を有する者
- (2) 産業界に関する見識を有する者 又は本学を卒業した者が勤務する企業等の関係者
- (3) 本学の所在する地域の関係者又は本学が参画する地域連携活動の関係者
- (4) 本学に在学する者
- (5) 本学を卒業した者
- (6) その他学長が委嘱した者

2 委員は本学の運営に関する見識を考慮して学長が選考し、委嘱する。

3 外部評価委員会に議長を置き、大学学長が指名する。

4 委員会には、学長が必要と認めるときは、委員以外の者を陪席させることができる。

5 外部評価委員会の庶務は、大学事務局 大学企画室が行う。

（外部評価委員の任期）

第9条 外部評価委員の任期は2年とする。ただし、委員 に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

4. 第3回外部評価委員会開催概要

4-1. 日程・場所（実施方法）・参加者

開催日	2023年2月17日（金）	
時間	14:00～16:00	
形式	対面会議とZoomによるWEB会議の併用	
外部評価委員 出席者	山本 眞一	高等教育に精通した方
	陶山 千里	産業界に関する見識を有する方
	田中 謙治	産業界に関する見識を有する方
	高橋 仁	地域連携活動関係の方
	鄭 明淑	卒業生（2006年人間社会学部心理カウンセリング学科卒）
	植草 泰憲	卒業生（2009年保健医療学部理学療法学科卒）
目白大学 出席者	太原 孝英	学長
	今野 裕之	副学長（司会進行）
	土井 正	副学長
	堤 千鶴子	副学長
	矢野 秀典	保健医療学部長
	牛山 佳菜代	新宿キャンパス学務部長（進路担当）
	峯村 恒平	学長補佐（内部質保証担当）
	沼田 真美	高等教育研究所学長付助教（IR担当）
	笠井 俊秀	大学事務局長
	鈴木 伸明	大学事務局次長
	鈴木 あ久利	就職支援部長
	岡 かおる	大学企画室長
	池村 えみ	高等教育研究所 IR 推進部門長（内部質保証担当）
	小島 洋介	大学企画室主任
記録	篠口 政司	大学企画室

順不同、敬称略

4-2. 事前資料

下記資料を2023年1月24日に外部評価委員へ送付し、2月16日に追加資料を送付した。

<事前配布資料>

- ① 2022年度外部評価委員会開催について
- ② 本学のキャリア支援・就職支援について（解説）
- ③ データ集
 - ③-1 2021年度卒業生の就職状況
 - ③-2 2021年度卒業生の各学科業種別就職者数
 - ③-3 2021年度卒業生の国家資格取得状況（過去実績）
- ④ 新宿キャンパス資料
 - ④-1 キャリア教育科目のシラバス抜粋
 - ④-2 2021年度自己点検評価年次報告書【就職支援】
 - ④-3 学生便覧抜粋
 - ④-4 キャリアブック抜粋（学生用就職マニュアル）
- ⑤ さいたま岩槻キャンパス資料
 - ⑤-1 保健医療学部・看護学部「ベーシックセミナー」（シラバス）
 - ⑤-2 2021年度自己点検評価年次報告書【国家試験対策、就職支援】
 - ⑤-3 学生便覧抜粋

- ⑤-4 キャリアブック抜粋（学生用就職マニュアル）
- ⑥ 本学の卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）について
- ⑦ 卒業時（学位授与式当日）アンケートの結果
- ⑧ 卒業後（卒業後3年目に入った卒業生）アンケートの結果
- ⑨ 就職先企業等アンケートの結果
- ⑩ 共通科目パンフレット（本学1年生へ配付）

<追加発送資料>

- ① キャリアブック（前回資料④-4の本体）
- ② 学生便覧（テーマ2のディプロマ・ポリシー達成状況関連として、学位授与方針、開講科目、単位取得までの流れが記載）
- ③ さいたま岩槻キャンパス就職先一覧
- ④ 用語集（参考資料）

<当日配付資料>

- ⑦ 保健医療学部国家試験対策と就職支援について
- ⑧ 看護学部国家試験対策と就職支援について

<事後アンケート>

後日、委員の方々に、各テーマについて事後アンケートを回答いただいた。
 （当報告書の評価・意見には、当該アンケートのコメントも含める）

4-3. テーマについて

当日は以下の3点にテーマを絞り、意見をいただいた。

- (1) テーマ1. 「本学のキャリア・就職支援について」
 - ・評価の視点：本学の使命・目的を実現するために、組織的に学生のキャリア教育、就職支援に取り組んでいるか
- (2) テーマ2. 「ディプロマ・ポリシーの達成状況について～各種アンケート結果から～」
 - ・評価の視点：卒業時、卒業後アンケート及び就職先アンケートの結果を基に、本学の学位授与方針が達成できているか
- (3) テーマ3. 「SDGs副専攻、DX副専攻について」
 - ・評価の視点：昨年度委員会時にご紹介した副専攻の開設1年目の状況報告から、本学副専攻が社会のニーズに応えているか

5. 議事概要

5-1. 開会

太原学長による開会の挨拶の後、本学外部評価委員会の趣旨が説明された。続いて、外部評価委員の皆様より、自己紹介をいただき、次に、大学側出席者の自己紹介が行われた後、司会（今野副学長）より、各テーマの本学説明後に質疑応答、ご評価をいただく会議の流れについて説明があり、その後、討議に入った。

なお、報告書のまとめるにあたり、説明項目別に質疑応答、評価をまとめており、実際の会議での発言順ではない。

5-2. テーマ1「本学のキャリア・就職支援について」

5-2-1. 新宿キャンパスのキャリア教育と就職支援について

1) キャリア教育について

説明者：牛山新宿キャンパス学務部長（進路担当）
（参照資料は資料②④）

2013年2月のキャリアセンター会議で策定された「学生が、在学中に教育課程の内外を通して、多様な体験を積み、自信をもって自分のできることを自覚し、実社会に関わっていく力を育てること」という一貫した方針の下、キャリア教育及び就職支援を取り進めてきた。新宿キャンパスでは、各学科教員1名と就職支援部の職員で構成される就職キャリア委員会が、毎月1回の委員会を通し、キャリア教育の諸課題に取り組んでいる。

具体的には、共通科目のキャリアデザイン分野で、「専門とキャリアA・B」「仕事と社会」「キャリア研修Ⅰ・Ⅱ」「キャリア演習」の科目を開設し、キャリア教育を実施している。なお、2023年度よりキャリアデザインを統括する専任教員を1名採用することとなり、当該教員が担当する「キャリア演習」（2年次配当、2023年より開講）では、低学年より学生が自身の進路を主体的に考え、自身で切り拓く力の育成を目的とする。

■質疑応答

Q) キャリア教育（インターンシップ含む）が、3年より2年対象の科目が多いのはなぜか。
＜本学の回答＞

- ・インターンシップをはじめとするキャリア教育は低学年から実施し、「仕事を知る」以前に「社会を知る」ことからキャリア教育をスタートしている。

Q) 採用する教員について、大学の方針として、「キャリア指導が出来るか、出来ないか」ということを採用の条件に入れているのか。

＜本学の回答＞

- ・「専門とキャリア」を担当する教員は、各学科の就職キャリア委員であり、全員がキャリア教育を専門とする教員ではないが、各学科がどのような取り組みを行っているか、就職キャリア委員会で共有し、他学科の良い取り組みを見習うなどの勉強会を行っている。
- ・一般教員の採用に際して、採用基準にキャリア教育の経験の有無を問うことはしていないが、キャリア教育もできるほうが望ましい。
- ・キャリア教育の専門的な教育は、今年度就任する専門の教員が担当し、学科の専門性を生かした進路指導は、学科の教員（就職キャリア委員）が担当する。

■評価・意見（事後アンケート結果も含める）

- ・キャリア教育の専任教員を中心に一層のキャリア教育の充実を図られるよう期待する。但し、全ての教員が大学のミッションを踏まえ、学生の立場に立った適切なキャリア教育・指導を行うことも、引き続き行っていただきたい。
- ・キャリア支援や学業だけでなく、部活やアルバイトを含めた学生生活を充実させることにより、学生の成長や将来を考える学修環境の整備に期待する。

2) 就職支援について

説明者：鈴木就職支援部長
（参照資料は追加資料④）

「育てて送り出す」という教育理念のもと、卒業時に必ず社会につなげて送り出そうと心がけ、「生きる力」と「働くという意識の醸成」について、学生一人一人に届くような支援を行っている。キャリアセンター（就職支援部）は、就職支援部の職員とキャリアカウンセラーで構成されているが、教員、職員、保護者の3者が一体となり、進路支援を行っている。支援方法は個別対応、個別相談に力を入れており、対面とZoomによる2種類の相談事業を行っている。また、学外からの支援として、新卒応援ハローワーク、就労支援所等も活用している。

保護者に対しては、3年生秋に保護者対象就職説明会を開催し、最新の就職情報、キャリアセンターの支援及び各学科の就職先等について伝えている。

学生の居場所作りも重要と考え、学生同士のタテ・ヨコのつながりを持つ機会として、少人数のワークショップを開催し、学年・学科を超えた交流の場を設けた。資料④-4のキャリアブックは、デジタル版も用意し、学外でいつでも閲覧できる環境を整備している。

■質疑応答

Q) 学生の居場所づくりとしてのワークショップは、誰でも参加可能な開放的なものなのか。

<本学の回答>

- ・学科学年を超えた学生のワークショップであり、キャリアカウンセラーと就職支援部職員が中心となって行い、20名弱の学生が参加した。その結果、参加学生は、「キャリア研修」に応募するなど、積極的な活動に繋がっている。

Q) 就職が決まらない学生、卒業生への支援について

<本学の回答>

- ・学生への状況確認、必要があれば保護者へも確認し、活動状況を担任教員と共有している。また、個別に学生へ求人を紹介するなど、粘り強く対応している。なお、健康上の理由で就職活動が上手くいかない学生には、就労移行支援所へカウンセラーや職員が同行して紹介するケースもある。
- ・卒業した後の卒業生の相談を受け付ける体制を整えており、個別支援を行っている。

Q) 卒業生数と就職希望者数、就職決定者数の差異について（資料③-1）

<本学の回答>

- ・さいたま岩槻キャンパスの場合は、就職未決定者は国家試験不合格者である。
- ・新宿キャンパスの場合、就職を希望しない学生の卒業後の進路は、アルバイトや留学、大学院や専門学校への進学である。また、昨今は企業の新卒雇用形態も多様になっており、正規雇用ではなく、契約社員からスタートし、キャリアアップを目指す卒業生もいる。

■評価・意見（事後アンケート結果も含める）

- ・上下関係を構築することが苦手な学生（社会人）も多いので、異なる学年の学生との交流の場を設けることも検討いただきたい。
- ・少人数でのワークショップは意見が発し易く、また、学生の居場所づくりという点で評価できる。
- ・個々の学生に、きめ細やかに就職支援していることは評価できる。
- ・日本的採用（正規社員、終身雇用）が崩壊し、就職市場の急速な変化に伴い、これまで以上に就職支援は複雑化しているが、依然として正規非正規の格差がある現実を踏まえ、学生が安易な進路選択をしないよう学生指導に期待する。
- ・他大学と比較し、特別な支援体制とはいえないので、今後、目白大学の独自性がある就職支援に期待する。

- ・卒業生の約2割が進路未決定である状況について更に詳しく分析を進めることが望ましい。

5-2-2. さいたま岩槻キャンパスの国家試験対策と就職支援について

1) 保健医療学部

説明者：矢野保健医療学部長
(参考資料は当日配付資料㊦)

入学前に通信教材による課題の実施と学内での研修を実施。1年次から見学実習を行い、早期に専門職のイメージを持たせる。また、全学年横断の少人数合同ゼミ学習を1年次から開始(4年生まで集う学年の垣根を外したゼミ)、2年次から学外実習、国家試験対策、模擬試験を多数行うなど、体系的な指導体制を整備している。就職支援は、キャリアブック配付、マナー講座等を実施。就職先の病院等の施設を招致した就職説明会は、2022年度は対面とハイブリッドで行い、約149施設にご参加いただいた。就職希望者の就職率は100%であり、実習先へ就職する学生も多い。

2) 看護学部

説明者：堤副学長
(参考資料は当日配布資料㊧)

国家試験対策は1年次より学習習慣の定着を徹底して行い、2クラスに分かれ、クラス担任が中心となりサポートする。3年次は学外実習による知識と技術の習得と国家試験の必修問題へ取り組み、4年次には模擬試験を繰り返し行うことで、理解度を確認する。また、外部講師による補講を行い、ゼミ担当教員がサポートを行うなど、体系的な対策を行っている。就職支援は、1・2年次は人間力、社会人基礎力の涵養を行い、3年次より卒業生と語る会などのイベントを通して、キャリアへの意識を持たせ、就職説明会やゼミ担当教員・学生課職員のみめ細やかな支援により4年次夏ぐらいまでに就職先が決まる。就職先は、本学の実習施設(国公立系をはじめとする専門性の高い病院)へ多くの学生が就職している。

■保健医療学部・看護学部への評価・意見(事後アンケート結果も含める)

- ・さいたま岩槻キャンパスの学生は、目的意識を持って入学していることから就職意識が高いことが理解できた。
- ・国家試験と就職活動が両立できる環境づくりのため、さまざまな部門が連携して学年に応じた計画的な支援が行われている。
- ・専門性を支える教養教育や専門に関する基礎的な学問を教授することが大切だと考える。
- ・まずは資格をしっかりと取得すること、そして、働く上でのコミュニケーション能力の必要性に学生自身が気付くことが重要であり、カリキュラムの中で技術力と対話力の研鑽ができることは貴重である。
- ・スマートフォンを活用した国家試験対策など、個別にきめ細かく対応している点は評価できる。
- ・国家試験に不合格であった学生へのフォローも十分に行うことも重要だと考える。
- ・学生が低学年のうちに、職種への更なる理解や該当職種に求められる人材の理解を深める機会を設け、学生の早期の自覚を促し、適していないと気付いた際のキャリアチェンジの機会があっても良いと考える。

5-3. テーマ2「ディプロマ・ポリシーの達成状況について～各種アンケート結果から～」

5-3-1. 各種アンケートの結果について

1) 卒業生アンケート（2022年3月卒）の結果について

説明者：峯村学長補佐（内部質保証担当）

（参照資料は資料⑥⑦）

2022年3月に行った卒業時アンケート（回答率82.1%）から、本学ディプロマ・ポリシーの検証として、「在学中に向上したと思う知識や能力」を本学の学士力【人間性、社会性、知力（思考力と汎用的技能）、健康、向上心】と対応させ5件法で分析した。結果は、人間性4.1、社会性3.9、知力（思考力）4.1、知力（汎用性能力）3.6、健康4.0、向上心4.0であった。なお、評価が低い項目は、知力（汎用性能力）＝パソコン操作・外国語・文章表現力であり、学科の学びの特色によって大きな差が出た項目であった。（例えば、英米語学科の語学は高い、メディア学科のパソコン操作は高いなど）

なお、国語教育、情報活用教育は、今年度よりカリキュラムの見直しを行い、教育効果を高める対応を行っている。

2) 卒業後の卒業生アンケート（卒後2年半経過時）の結果について

説明者：池村 IR 推進部門長（内部質保証担当）

（参照資料は資料⑥⑧）

2021年実施と2022年実施の卒業後2年半経過した卒業生へのアンケート（回答率は20.4%と21.3%程度）では、クラブ・サークルの役立ち度は低く、学生時代に所属していない卒業生も多い結果であった。一方、友人との交流の役立ち度は非常に高く、近い人間関係の中でのみ活動している傾向が見受けられる。なお、卒業時に向上した能力と卒業後に身につけておけばよかった能力との比較では、コミュニケーション能力について、卒業生の45.9%が卒業時に「向上した能力」として挙げているが、卒業後は「足りない」と回答している卒業生も47.4%と多い。学生と社会人の「コミュニケーション能力」の捉え方（認識）に差があると考えており、今後の教育指導に役立てたい。

3) 就職先アンケートから見る求める人物像について

説明者：沼田高等教育研究所助教（IR担当）

（参照資料は資料⑨）

就職先アンケート（2021年一般企業、2022年専門職（医療、福祉、幼保等）の結果から、「求める人物像」について説明があった。一般企業と専門職とで大きく異なる回答となったのは、採用理由であり、一般企業はクラブ・サークル活動、アルバイト経験が高く、専門職は資格保有が1位であった。次に専門分野の基礎的能力や資格の有無については、一般企業は重視の度合いは低い、専門職は高かった。なお、人柄・マナー、コミュニケーション能力は、企業、専門職に共通して「重視する」が一番高く、学生の就職活動において重要なポイントとなる。業務に必要な資格以外で推奨する資格は、企業も専門職も重視の度合いは低く、具体的な資格は「特になし」という回答がいずれも1位であった。

■質疑応答

Q) 卒業時アンケートの「健康」は「生活の自己管理能力」とリンクしているが、大学において、生活の自己管理能力を高めるために、どのような工夫をしているのか。

<本学の回答>

- ・初年次教育のテキストで、『時間割をたてよう』『1日のスケジュールをたてよう』『提出物の期日管理をしよう』など丁寧に指導している。また、学科にもよるが、卒論の題目提出や論文提出スケジュールなど定められたスケジュールに沿った計画立案の方法も指導している。昨今はメンタルの面も大きな意味での健康に含められると考える。

Q) クラブ・サークルに所属していない学生が多いが、企業等はクラブ・サークル活動での経験を採用時に重視している。コロナ禍により、クラブ活動等ができず、横や上下の関係構築が困難になっていたと想像するが、どのように再構築、活性化するか。

<本学の回答>

- ・まず、学生と教職員が良好なコミュニケーションをとることが重要と考え、初年次教育に重点を置き、20名程度の少人数クラスを構成し、担任制度を設けている。
- ・コロナ禍の遠隔授業により、人との関わりが減り、それが「楽だ」と考える学生が増加している。また、クラブ・サークル活動が停滞している状況に慣れてしまったことも事実である現状を踏まえ、大学のキャンパス内で、学生が人と関わる場を設け、サークル活動等に興味を持てるように工夫したい。

Q) ディプロマ・ポリシーに示した学修成果が身についたかどうかの判断を、単位の修得以外で行っているか。

<本学の回答>

- ・本学では、全学のアセスメント・ポリシーを定めている。また、各学科は専門科目アセスメント・ポリシーを2022年度に策定し、ディプロマ・ポリシーの検証を始めたところである。専門科目アセスメント・ポリシーは、外部の標準化された試験や検定試験などを用いた学科もあり、各学科が工夫をして検証を始めている。なお、大学院では、学位授与の方針として、研究科毎に論文審査基準を明文化し、公表している。大学でも身につけた能力を判定、チェックした後、卒業認定するような制度、例えば卒業論文の判定の明文化などを含め、今後更に検討を進めたい。

■評価・意見（事後アンケート結果も含める）

- ・アンケートによりさまざまな状況調査分析を行っており、評価できる。
- ・卒業時アンケートの回収率と就職との相関関係などの分析が必要だと考える。
- ・学業以外のクラブ・サークル活動についての調査も必要だと考える。
- ・卒業後アンケートの回収率を高める対策、例えば、LINEなどのICTツールを使う取り組みに期待する。
- ・卒業後アンケートの回収率の高さは大学への帰属意識の高さの表われと感じる。
- ・ディプロマ・ポリシーに基づいた卒業認定とはどういうものか、中長期的に検討することが望ましい。客観的な手法の開発や外部でのテスト利用も参考になると考える。
- ・卒業後アンケートの対象者を、卒業後10年、20年経過した卒業生に行うことも重要と考える。
- ・卒業後アンケートから、卒業生はクラブ・サークルに所属していない学生が多いが、就職先アンケートからはクラブ・サークル活動を採用時に重視している企業が多いので、この乖離を埋めるための対策に期待する。
- ・大学時代でしか経験できない、学業以外の成功体験や失敗体験を沢山重ねること、特に失敗の経験は重要であり、学生生活の中で様々な体験の機会を学生に与えることが望ましい。
- ・社会での本学学生の評価、実績など些細なことでも、先輩のリアルな姿が見えるのはとても良い取り組みであり、評価できる。学生へも当該アンケートの結果を公表することは、有益と考える。

5-4. テーマ3「SDGs副専攻、DX副専攻について」

5-4-1. 副専攻の開講状況と今後について

説明者：土井副学長（教育担当）
（参照資料は資料⑩）

2022年度の1年次生より新宿キャンパスにて、SDGs副専攻とDX副専攻を開講した。2022年度はSDGs副専攻「持続可能な社会を考える」（1年次担当）は195名が修得、DX副専攻「デジタル化する社会を考える」（1年次担当）は104名が修得した。2023年度は、副専攻希望者は2年次担当の選択科目を履修するが、DX副専攻については開講科目を増やし、選択肢を広げた。なお、現在、2024年度の『副専攻ゼミ』開始に向けて、ゼミ担当教員、各ゼミの概要・ねらいの策定、副専攻修得に望ましい学生像について検討しており、2023年度内に学生向け副専攻ゼミガイダンスを行う予定である。

■質疑応答

Q) 副専攻の専攻方法、学費負担、卒業要件について

<本学の回答>

- ・当該副専攻の希望者には、選抜試験はなく、指定された必修科目と選択科目を修得することで3年次ゼミが履修できる。また当該副専攻受講に追加の学費負担はない。なお、ゼミ以外の一部の科目については、卒業要件に算入出来る仕組みにしている。将来的には単位数のハードルを設けることも考えられる。なお、2024年度はさいたま岩槻キャンパスでの副専攻の導入を検討する。

■評価・意見（事後アンケート結果も含める）

- ・SDGs、DXという、時流に乗った教育であり、同副専攻の開講は学生にとって大変期待できる。
- ・副専攻はそれを履修すること自体に目的があるのではなく、長い人生の中で役立つ基本的かつ実践的教養を身に付けるという態度で臨むように指導することを期待する。
- ・DXを進めていくためには、個々の生徒の思考力・発想力が重要であるため、思考力・発想力が高められるようなカリキュラムを期待したい
- ・副専攻という大学での学びを通し、意欲的に学ぶ学生が増えることに期待している。
- ・大学から副専攻について情報発信することは、採用面でのアピールになると考える。
- ・医療系の場合、国家資格取得のための沢山の必修科目と副専攻の開講科目について整備し、多くの学生が副専攻を履修し易い状況を整備していただければ、非常に有益な学びに繋がると期待している。

5-5. 閉会

各委員より、本日のテーマに対する感想や本学への要望をご発言いただき、山本委員長の総評をいただいた。その後、太原学長より謝辞が述べられ、閉会となった。

以上

6. 委員長総評

委員長 山本真一

大学の役割は、ただ単にアカデミックな教育や研究を行うことだけでなく、現実に学生を受入れ、彼らのさまざまな能力を高めて、就職その他彼らの希望する進路を歩むことができるようにして、社会に送り出すという意味で、非常に大事な役割を担っていると考えます。よって、大学の出口については、昔のように大学を卒業させれば、その後のことは大学には関係ないでは済まされない時代になっています。また、学生の就職状況、企業の採用状況を見ても、昨今は非常に早いスピードで多様化しているという中で、大学のキャリア指導・キャリア教育は、従来の知識が必ずしも役に立たないぐらい、大きく変わってきています。そのような変化に対応するためには常に学生への指導体制や指導内容を見直し変化させていくことが必要です。

各種アンケート調査の結果は非常に参考になりました。これに加えて、長期的な調査、例えば、10年前、20年前に卒業した学生が今どのような社会人になったか、どのように考えているかなども確認するとよろしいのではないのでしょうか。これは大学の歴史を重ねれば重ねるほど、そういったデータの蓄積が可能になるので、社会人として成長した卒業生が目白大学にどのような意見をお持ちなのかを何らかの形で大学運営にも活用することを期待します。

また、就職指導に限らず、これからは卒業生との関わりを、長いスパンで持つことが必要になってくると考えます。例えば、卒業生を招いてのホームカミングデイを開催し、『皆さんが卒業した大学は今こうなっていますよ』と報告するなど、卒業後も卒業生との関係を継続させる努力をする大学は増えています。いまは国立大学でさえ、卒業生との関係構築に尽力しています。実際、私の卒業した国立大学でも以前は何の連絡もなかったものが、近年は寄附の依頼とともに母校の様子を丁寧に伝えてきているほどです。私立大学であればなおのこと、形式的なリスキリングの場として済ませる形ではなく、『大学は、卒業生の皆さんと一生付き合っていきます』という姿勢も必要ではないでしょうか。

第1回、第2回と目白大学の様々な役割や取り組みについて話を聞かせて頂きましたが、今回は特に出口の問題として、非常に大事な「就職」の問題と「学士力、ディプロマ・ポリシー」の問題を取り上げ、拝聴させていただき、大変ありがとうございました。

7. 2022 年度（令和 4 年度）第 3 回外部評価委員会を実施して

副学長（教育担当） 今野裕之

目白大学の外部評価委員会は、有識者・外部のステークホルダーの方々による、教学全般についての改善提案と改善結果の検証をしていただくための委員会であり、本学の内部質保証活動においてきわめて重要なものと位置付けられています。

2022 年度は、①目白大学のキャリア・就職支援②各種アンケート結果から見る目白大学生の DP 達成状況、③2022 年度より開始した SDGs 副専攻及び DX 副専攻の開講状況と今後の展望、の 3 点について、大学が報告し、それに対して外部評価委員の方々のご意見をいただくことにしました。3 つのテーマは、2021 年度の外部評価委員会での議論を参考に設定したもので、2022 年度の議論の内容を踏まえて、本学の教育改善・教育の質向上のための改善計画を 2023 年度に策定したいと考えております。

委員会における議論では、いずれのテーマについても、本学の教育活動を一定程度肯定的に評価していただきましたが、同時に今後に向けての改善提案もいただきました。委員長の山本眞一先生からは、総評で、キャリア・就職支援については、社会の変革速度に応じて「指導体制や指導内容は、常に考え続け、変化させていくこと」の必要性を、各種アンケートについては、「社会人として成長した卒業生」の目白大学に対する意見を聴取するとともに「大学は、卒業生と一生付き合っていきます。」という姿勢の必要性をご指摘いただきました。これらは、内部質保証に係る者だけでなく、広く学内で共有して着実に今後の改善に生かしていきたいと考えております。

今後も、大学自身が充実した自己点検評価を行うとともに、外部の皆さまから今回頂戴したご意見を大学の施策に反映させ、一層の教育改善・教育の質向上に取り組んでまいります。